

2022

輝く県民活躍大賞

受賞活動（団体）の紹介

ジュニア・ユース部門

- 中高生による社会貢献活動
＜ 団体：南陽市中高校生ボランティアサークル にじ ＞
- 思いやりの循環社会！中高生による幼児・児童との交流ボランティア
＜ 団体：三川町中高生ボランティアサークル 来夢来人 ＞

若者部門

- 地域の方と共に、地域の可能性を広げたい！
地域活性化活動
＜ 団体：ボランティアサークル ポプラ ＞
- 模擬裁判公演
＜ 団体：山形大学模擬裁判実行委員会 ＞

一般社会貢献部門

- かみのやま草屋根プロジェクト
（持続可能な地域循環型サイクルの構築）
＜ 団体：羽州街道「檜下宿」研究会 ＞
- 寸劇を通じた防犯活動
＜ 団体：SKIT かほく ＞
- 「出前授業」講師派遣事業 いのちの教育・性の健康教育
＜ 団体：公益社団法人 山形県看護協会 ＞



中高生による社会貢献活動

南陽市 中高校生

ボランティアサークル にじ



花壇の除草作業

受賞した活動について

Q.どのような活動ですか。

高齢者施設への訪問や、施設の環境整備、乳幼児施設での交流や窓ふき、車いす清掃など行ってきましたが、約3年前からコロナウィルスが流行し福祉施設訪問などができない状況が続きました。しかしコロナ禍でも福祉施設との繋がりを絶やさないようにとの思いから、クリアファイルでマスクケースを制作し職員に渡す活動や、手作りの年賀状を出すなど自分たちで考え、できる活動に取り組んでいます。その他にも街頭募金活動、災害時を想定した非常食作り、除雪、他市町村のボランティアサークルとの交流なども行っています。さらに、「小学生ぼらんていあひろばびよっこ」との定期的な交流も行っています。

Q.いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

… 団体概要 …

代表者 菅野 あずみ
 代表 菅野 あずみ
 所在地 南陽市赤湯215-2
 主な活動分野 福祉施設訪問、環境整備等の社会貢献活動
 設立年月 平成11年2月
 会員数 31人(全員中高生)
 ホームページ

<https://www.nanyoshishakyo.or.jp>

(令和5年1月現在)

1999年、当時南陽市から県立山辺高校の福祉科や看護科に通う高校生3人が「授業で学んでいる知識と技術を活かして、自分たちが暮らす地域の為に貢献したい」と南陽市社会福祉協議会を訪れたのがきっかけです。

Q.活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

団体名の「にじ」の由来のように「雨上がり
 の空にかかる虹のように町を明るくしたい」「
 「メンバー一人ひとりが地域で輝けるように」
 との当時の思いを今も大切にしています。

Q.活動の中からどのような気づきや発見がありましたか。

活動していく中で様々な人と関わり、地域の人の温かさやつながりの大切さに気づきました。また、ボランティア活動を通して地

域貢献することでボランティアを行うことの達成感や充実感も発見できました。

Q. 活動をする中で困ったことはありませんか。そのときどのように対応しましたか。

世代の違う方との関わり方が難しく、最初は自信がなくて上手く話をするのができませんでした。しかし、活動を行うにつれて積極的に自分から話しかけ話題を広げていくことで、関わり方を少しずつ学んでこれたと思います。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

ボランティア活動の参加者が活動を通して感じた楽しさや、充実感を知ってもらうために、インスタグラムなどのSNSを通じて広く周知したり、ボランティアの説明会などを行うことが仲間を増やす工夫に繋がると思います。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

今年度のメンバーは31名で中学生22名、高校生9名です。高校生が積極的に中学生へ関わりをもち、学年や男女を越えて仲良く活動をしています。

また、活動内容も自分たちで考え、毎月1

回(第2土曜日午後)定例会を開催しています。



手作りマスクケース

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

歴史ある団体を今後も存続していくために、新規メンバーの随時募集やコロナ禍でも多くの方々に笑顔にできる活動を考え取り組んでいきたいです。

また、楽しみながらボランティア活動をおこない、みんなで手と手を取り合いながら南陽市を盛り上げていきたいです。



アイラップを使用しての災害時の食事作り



ごみ拾い



2022
輝く県民活躍大賞
ジュニア・ユース部門

思いやりの循環社会！中高生による 幼児・児童との交流ボランティア

三川町中高生ボランティアサークル来夢来人

… 団体概要 …

代表者
代表 佐久間 美羽
所在地
東田川郡三川町大字押切新田字
桜木8-1三川町子育て交流施設
テオトル(事務局)
主な活動分野
中高生有志による地域
ボランティア
設立年月
昭和63年9月
会員数
会員49名(全員中高生)
(令和5年1月現在)



学童保育所訪問

受賞した活動について

Q.どのような活動ですか。

町内の保育園や子育て支援センターでの奉仕活動や町事業への参加などを主な活動としています。中でも、20年前に始まった保育園訪問を発端とした幼児・児童との関わりに重点をおき、時代に合わせた形で活動を継続しています。

Q.いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。
平成14年の完全週5日制の開始に伴い、中高生の土日の過ごし方として、保育園訪問が始まりました。当時は町内3つの保育園を順番に訪問していたそうです。メンバーは入れ替わりながらも、この活動を始めてくださった先輩方の思いを受け継ぎ、20年とい

う節目の年にこのような賞をいただけたことを誇りに思います。これまで来夢来人に関わり、支えてくださったたくさんの方々感謝の思いでいっぱいです。

Q.活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

自分たちよりも小さな子どもたちと接する機会が多いため、手本となれるように言葉遣いや態度には気を付けています。また、会員自身がボランティア活動を楽しむことを大切にしています。

Q.活動の中からのどのような気づきや発見がありましたか。

小学生の時に参加していた町の事業に、今は協力者という形で関わり続けていけてい

ることに楽しさややりがいを感じます。一緒に遊ぶ子どもたちの遊び方を見てみると、自分たちの当時の遊び方と同じところや違うところを見つけることがあります。懐かしさや新鮮さを感じるとともに、自分たちもこうしてたくさんの方の愛情を受けて育ってきたことに気づき、感謝の気持ちになります。

Q. 活動をする中で困ったことはありませんか。そのときどのように対応しましたか。

コロナの影響で、それまで（～R1）活動の中心となっていた保育園訪問が難しくなっていました。同じころ、町の子育て支援センターの移転に伴い運営体制が変わり、ボランティアを受け入れてもらえることになりました。「子どもたちとふれあいたい」という会員の希望を叶える活動を継続することができました。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

会員同士が仲良く、楽しく活動していることで、会員の友達や後輩が入会しやすい雰囲気を作っています。また、町内の小学生は低学年のころから様々な事業で活躍する中高生の姿を見ており、中学進学後のスムーズな入会につながっています。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

令和3年度よりサークル独自の活動として、SDGSの観点から町内を流れる赤川を起点とした川ごみ・海ごみの清掃活動「RE:プロジェクト」を始めました。この活動は公益文科大学さんのご協力のもと、大学生のみなさんや大学の先生方と一緒に活動しています。

町公民館事業等にも積極的に参加し、町民の皆さんとの交流の機会としています。



子育て支援センター訪問



保育園訪問

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

今後はこれまで以上に会員自ら活動の企画に参加し、事務局と連携しながら主体的な活動を目指していきます。また、保育園訪問の復活を含め、事業の継続、会員数の維持など、今いる会員が卒業した後も来夢来人の活動が展開していけるよう、後輩たちの手本となる活動を続けていきたいです。



最上川源流よねざわ紅花プロジェクト



地域の方と共に、地域の可能性を 広げたい！地域活性化活動

ボランティアサークル ポプラ

… 団体概要 …

代表者 代表 高橋 晟子
 所在地 米沢市通町6-15-1
 主な活動分野 地域貢献、地域活性化
 設立年月 平成24年4月
 会員数 40名
 ホームページ <http://www.yone.ac.jp/campuslife/poplar>
 (令和5年1月現在)

受賞した活動について

Q.どのような活動ですか。

米沢市を拠点に、社会福祉協議会のご協力のもと、地域の方々や芋煮会や笹巻きづくり体験などを通して交流したり、令和3年度からは「紅花プロジェクト」に携わり、スタッフ業務を行ったりしています。学内では、食料支援配布ボランティアや「よねたん新歓プロジェクト」にピアサポーターとして参加し、「LINEオープンチャットで新入生の質問に答えていく活動も行いました。学内外問わず、地域活動をしています。

Q.活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

一緒に活動する地域の方への敬意を忘れないことを大切にしています。学生と交流する機会を設けていただいていることに感謝し、「また一緒に活動したい」と思っていただけるよう丁寧な言葉遣いや謙虚な態度、笑顔を中心掛けています。また、メンバー同士が楽しく活動できるように、和気あいあいた霧困気づくりを大切にしています。

Q.いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

平成24年4月から始めました。ボランティア活動を通して地域の方との交流を深め、よりよい社会づくりに貢献するために立ち上がったサークルです。

Q.活動の中からどのような気づきや発見がありましたか。

活動の中で、地域の方から「また一緒に何かできたらいいね」と声をかけていただいたり、「ポプラさんと今後も連絡をとっていきたい」という言葉をいただいたりするたびに、私たち学生と活動することを喜んでくれて

いる方がいるというように気づかされました。地域の方からの温かい言葉が、活動のモチベーションになっていると感じています。

Q. 活動をする中で困ったことはありませんか。

そのときどのように対応しましたか。

サークルの連絡事項は基本LINEで行っていて、メンバーの顔が見えない状況のため、連絡がうまく回らなかったり、情報が抜けたりすることがあります。そのときは、メンバーにとって必要な情報を整理し、簡潔な文章を送れているかを確認することで対応しています。また、活動前日に再度日時や持ち物を連絡して、活動に参加するメンバーに呼び掛けています。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

ポプラの活動に興味を持った方が気軽に質問したり、入部の申し込みをしたりできるように、勧誘チラシに大きくLINEオープンチャットのQRコードを貼って掲示しています。さらに、1年生が入学してくる春のタイミングで、メンバーに各々の友人、後輩などに入部を働きかけてほしいという声かけをして、仲間が増えるようにしています。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

ポプラは毎年田んぼアート田植えボランティアにも参加しています。活動は決まった曜日等はなく不定期で行っているのですが、メンバーの時間があるときに無理なく気軽に参加できることが魅力です。全学科の学生が入部しているので、学年・学科を超えたつながりを作ることができます。



田んぼアート田植えボランティア

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

今後は、今年度から始めたインスタグラムでの情報発信にさらに力をいれていくこと、多くのメンバーが活動に参加できるように、自分たちからこんな活動を一緒にやってみたいという意思表示をして、今まで以上に地域の方とつながる機会を作っていくことを目指していきたいです。また、サークルの枠を飛び越えて、様々な団体の方と交流していきたいと考えています。



紅花の植栽



模擬裁判公演

山形大学

模擬裁判実行委員会

… 団体概要 …

代表者
実行委員会委員長
佐々木 裕紀

所在地
山形市小白川町1-4-12

主な活動分野
模擬裁判公演を通じた市民の
方々との交流

設立年月
昭和48年4月

会員数
91名

ホームページ
<https://yamadai-mogisai.jimdofree.com/>
(令和5年1月現在)

受賞した活動について

Q: どのような活動ですか。

法律を学びたいという思いを抱いていた学生により組織された、山形大学人文社会科学部の学生研究団体です。年に一度「模擬裁判公演」を公開し、法律や社会問題といった学生の研究成果を地域の皆様に還元することを目的に活動しています。

私たちは例年、100名前後の規模で活動しています。脚本の作成や広報活動といった公演に向けた準備から、演技や舞台演出といった公演当日の舞台活動まで、団体の活動のすべてにおいて学生自身の手で運営しています。

Q: いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

1973年から始めた活動で、昨年団体設立から50周年の節目を迎えました。当時の人文学部経済学科

で「法律を学びたい」という思いを抱いていた学生が、法学科の設置を求め組織しました。

Q: 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

地域の方々に近い目線から社会問題を考える機会を提供することを重視しています。毎年、過労自殺や同性婚、ヤングケアラーといった、近年明らかになってきた社会問題を取り上げています。構成メンバーには法律を専攻していない学生も多いため、法律に詳しくない仲間の目線を取り入れることで、地域の方々に分かりやすく伝えることにつながっていると考えています。

Q: 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

地域の皆様に受け入れて頂いているからこそ、自分たちの活動が成り立っているということを実感しています。山形県内のたくさんの企業の方からご支援を頂くとともに、本当に多くの方々から励ましのお言葉を頂くことで、毎年の公演を実施できていることを身に染みて感じています。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

100人規模の大人数の団体のため、コロナ禍での交流の機会の減少には頭を悩ませました。そこで、2020年と2021年は活動の大半をオンラインに切り替える代わりに、これまで以上に定期的に集まる機会を増やしたり演者の基礎稽古に割く時間を充実させたりしました。その結果、対面での活動が少ない中でも、質の高い公演の実施につながられたと思います。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

近年ではSNSを活用し、早い時期から団体の活動を発信しています。私たちは人文社会科学学部で一番大きな学生団体なので、大学生にとって不可欠な人脈づくりや貴重な経験ができる場であることをアピールしながら、この活動を続ける仲間を増やしていくと考えています。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

近年では公演活動はもちろんのこと、SDGsの普及に向けた活動にも力を入れています。特に、「教育」と「平和と公正」の面からアプローチしています。昨年10月に山形ビックウイングで開催された「山形SDGsフェスタ」に出展するなど、学内外で精力的に取り組んでいます。

また、同世代の問題であるヤングケアラーを題材とした昨年の第50回公演では、山形市内の高校生の皆さんが集団でご来場くださいました。地域における教育活動の推進という点で、とても手ごたえが感じられた出来事だったように思います。

SDGs フェスタ



模擬裁判公演 法廷シーン



今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

これからの新たな50年に向けて、より多くの人々に活動を認知していただけるようにしたいです。特にSNSでの情報発信や動画共有サイトの積極的な活用で、山形県内はもちろんのこと、県外の方々にも模擬裁判公演を観ていただきたいです。より多くの皆さんとのつながりを感じながら、地域に根差した山形大学の研究団体として、活気ある活動を行っていきます。



2022
輝く県民活躍大賞
一般社会貢献部門

かみのやま草屋根プロジェクト (持続可能な地域循環サイクルの構築)

羽州街道「檜下宿」研究会

… 団体概要 …

代表者
会長 佐藤 司郎
主な活動分野
地域の文化財を核とした歴史
まちづくりの推進
設立年月
平成20年12月
会員数
23名

(令和5年1月現在)



かみのやま草屋根プロジェクト

受賞した活動について

Q.どのような活動ですか。

私たちが暮らしている檜下宿(国史跡)には、江戸時代に建てられた茅葺屋根の歴史的建造物が3棟現存し、いずれも上山市の文化財に指定されています。歴史的建造物の茅葺屋根を地域で適正に保存し正しく後世に伝承するため、地域の耕作放棄地を茅場に再生させ、その再生茅場で刈り取った茅でふるさとの茅葺屋根を保全する取り組みが私たちの「かみのやま草屋根プロジェクト」です。

Q.いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。
歴史的建造物の茅葺屋根を適正に保存管理することは決して容易ではありません。茅葺屋根の修繕に必要な茅は近隣や県内で調達することが困難なことから、これまでは県

外で購入するなどコスト面で大きな負担となっていました。文化財に指定された茅葺屋根の歴史的建造物は、これからも大切に守り伝えていかなければならない地域の歴史文化遺産なので、コストを抑えつつも茅葺文化を保存する持続可能な仕組みの構築を目指して、平成28年度に草屋根プロジェクトに着手しました。

Q.活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

地域の茅葺文化を地域で守る草屋根プロジェクトの活動が、住民の負担や義務にならないように常に意識しています。研究会自身草屋根プロジェクトの活動を楽しむことをモットーに、檜下宿の地域資源を活かした歴史まちづくりに取り組んでいます。

Q.活動の中からどのような気づきや発見がありましたか。

活動を通して自分たちが茅葺文化や檜下宿の歴史を知らないことに気づかされました。そこで、学習会やフィールドワークを繰り返し開催し、住民自らがふるさと理解を深めています。コロナ禍で県外に出掛けることが難しい教育機関が、草屋根プロジェクトで茅葺文化の保全が進む檜下宿を教育旅行で訪れるようになりました。私たち研究会では、来訪する教育機関を地域で受け入れ、宿場のまち歩きをガイド案内することで、伝統や文化にふれる学びの機会を提供しています。



Q.活動をする中で困ったことはありますか。

そのときのように対応しましたか。
茅場の再生も茅刈りも何もかもが初めてのことばかりで試行錯誤の連続です。思うようにいかないこともありますが、失敗から多くのことを学んでいます。茅の刈り方や刈り取った茅の束ね方などいまだ発展途上の段階ですが、みんなで話し合いを重ねながら檜下宿スタイルを追求しています。

Q.活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

「草屋根プロジェクトの活動が「単なる作業」にならないように強く意識して取り組んでいます。毎年11月に再生茅場で実施している茅刈りには、檜下宿の住民に加え、活動の趣旨に賛同する県内茅葺職人や上山市の城下に現存する武家屋敷(茅葺建造物)の関係者、上山市内の小学生が通う放課後子ども教室、東北芸術工科大学や山形大学等も参加しており、令和4年度の茅刈りには上山市内外から約70人が参加するなど、賛同者は年々増加傾向にあり、活動の輪が広がりをみせています。

その他の活動について

Q.その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

檜下宿の貴重な茅葺文化を地域で適正に保存し後世に正しく伝承するために始動した草屋根プロジェクトでは、檜下宿の茅葺修繕で使用する茅を十分確保した上で、上山市内の茅葺建造物である武家屋敷4棟の茅葺修繕にも茅を供給しています。また、令和元年度からは檜下産の茅の市外出荷にも取り組んでおり、山形県内の茅葺文化の適正な保存と伝承に役立てられています。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

私たちの研究会は、毎月の話し合いも多様な地域づくり活動も「参加できるときに参加する」、そんな緩やかなスタンスです。

5年後、10年後の檜下宿のあるべき姿を地域のみならず共有しながら、自分たちのために、自分たちの地域のために、今後も活動を続けていけたらと考えています。





寸劇を通じた防犯活動

SKITかほく

… 団体概要 …

代表者
代表 古澤 直義
主な活動分野
寸劇を通じた防犯活動
設立年月
平成26年4月
会員数
13名

(令和5年1月現在)

受賞した活動について

Q.どのような活動ですか。

村山地域の各地町内会や高齢者団体、山形県消費生活センター等の依頼を受けて各地域の公民館や公共施設を会場に一話20分〜30分程度の寸劇を行っています。特殊詐欺の様々な手口を、ユーモアをまじえて演ずることで、詐欺被害防止に繋がっていただければと思います。

Q.いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

平成26年4月に「SKITかほく」を立ち上げ、その年の10月に河北町白山堂の公民館で寸劇を披露したのが初演でした。定年前に偶然特殊詐欺被害防止の寸劇をインターネットで見て、「これなら自分にもできるのでは」と寸劇のシナリオをニュース等を参考に書き、定年後中学校の同級生に声を

掛けて活動を始めました。

Q.活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

寸劇をご覧いただく対象者が高齢者が殆どですので、セリフは方言で分かりやすく、親しみを持っていただけるようにしています。また、寸劇の中やナレーターの説で詐欺に遭わないためにはどうすればよいのかを必ず再現シーンで演じたり、解説しています。

Q.活動の中からどのような気づきや発見がありましたか。

オリジナルのシナリオが現在12本ありますが、その中で「オレオレ詐欺」や「還付金詐欺」「警官なりすまし詐欺」等の内容とほぼ同じ手口で詐欺被害が発生しているニュース

を見聞することが多いので、是非我々の寸劇を見ていただきたいと思っています。

Q. 活動をする中で困ったことはありませんか。そのときどのように対応しましたか。

通常寸劇の出演者は5名＋ナレーター1名の6名で女性役が3名、男性役が3名ですが、都合でメンバーが出演できない場合があります。その場合は、急遽知り合いに出演をたのんだり、1人2役でのいだことがあります。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

現在は特にメンバーを増やすことは考えてはいませんが、今後寸劇の配役の中で他団体などと一緒に演ずる機会があれば、連携した活動などを考えていきたいと思っています。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

当団体は、河北町ボランティア連絡協議会に加盟しており、毎年9月に実施している河北中央公園清掃ボランティア活動に参加しています。この公園清掃は谷地どんが祭りに来て下さる方々に気持ちよく公園を利用していただく為、また、河北町を綺麗な町にしようと考えて活動しているものです。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

年々かたちを変えて発生する特殊詐欺を少しでも減らすことができるよう、新たなシナリオも作成して今後とも継続して活動していきたいと思っています。

寸劇の様子





2022
輝く県民活躍大賞
一般社会貢献部門

「出前授業」講師派遣事業 いのちの教育・性の健康教育

公益社団法人 山形県看護協会

… 団体概要 …

代表者
会長 若月 裕子
所在地
山形市松栄一丁目5-45
主な活動分野
看護職の職能団体
設立年月
昭和22年活動開始、
平成25年4月より現団体認定
会員数
7,973名
ホームページ
<https://www.nurse-yamagata.or.jp/>

(令和5年1月現在)



出前授業の様子

受賞した活動について

Q.どのような活動ですか。

県民の皆さま、特に小・中学生、高校生を対象に各年代に合わせたいのちの大切さや心と体の成長、性の健康に関する知識などについての「出前授業」を実施しています。当協会の「性の健康支援ネットワーク」に登録している、山形県内で働く保健師・助産師・看護師等が講師となり、看護職ならではの視点で「いのちの教育」「性の健康教育」を行っています。

Q.いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。
2006年に委員会を立ち上げ活動を開始しました。活動を始めたきっかけは、山形県の第5次山形県教育振興計画において「いのちの教育」が柱に据えられており、学校等から当協会への性教育の依頼が増加していたこと

そして過去に、山形県の20歳未満の人工妊娠中絶実施率が全国でも上位となった年があり、若者たちの健康な性への支援と次世代育成への支援の必要性を感じていたことから、活動を開始しました。

Q.活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

生命や性への理解を深めることで、小・中学生、高校生の青少年の健全な育成に貢献できるように努めています。「いのちの教育」や「性の健康教育」は、年代によって求められている内容が違うため、小・中学校、高等学校の各施設の要望を大切にしています。また医療現場ではない場所でも、「看護職」として何を伝えたいのか、いのちの現場で働いている看護職だからこそ伝えられることは何か、ということを大切に活動しています。



Q. 活動の中からどのような気づきや発見がありましたか。
 担当教諭からは「コロナ禍ということで見通しが持てずに日々悩みを持ちながら過ごしている生徒に対し、前向きに話をしていただき、「生命尊重」「心と体の成長」「自分の生き方」などについて考える良いきっかけとなった。」との感想が寄せられました。また生徒からも自他の命の大切さ、自分を育ててくれた方々への感謝の思いなどの感想が多くありました。初めて申込む学校もあり、コロナ禍であるからこそ、自他の「いのち」の大切さを学ぶ機会が必要なのだと感じました。



小学校への出前授業



スキルアップ研修会

「出前授業」講師派遣事業は、他にも看護の仕事や看護の魅力を伝える「看護の仕事」、看護職になるための進路や資格の取り方を伝える「看護職への道」なども行っています。また山形県看護協会は、山形県内で働く保健師・助産師・看護師・准看護師で構成する看護の職能団体です。県民の皆さまの工ルがすべての看護職の力になります。今後ともあたたかい応援をよろしく願っています。

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。
 その他の活動について

「いのちの教育」の普及・啓発と実施者（性の健康支援ネットワーク）の拡大および質の向上を図る目的で、委員会（いのちの教育推進委員会）を設置し共に活動しています。スキルアップできるように研修会の企画・開催と、会員募集のポスターや動画を作成し掲示等しています。また当協会会員向けの広報紙に活動内容を掲載し活動の周知も行っていきます。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。
 「コロナ禍となり、対面での実施が困難になった場合は、オンラインで実施しました。」
 Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。
 「この健康支援ネットワーク（会員）の拡大および質の向上を図る目的で、委員会（いのちの教育推進委員会）を設置し共に活動しています。スキルアップできるように研修会の企画・開催と、会員募集のポスターや動画を作成し掲示等しています。また当協会会員向けの広報紙に活動内容を掲載し活動の周知も行っていきます。」

【「いのちの教育・性の健康教育」依頼内容 一覧】

小学校			
・生命誕生、あなたの誕生	・命のはじまり（精子、卵子、受精卵）	・生まれてくるということ	
・出生時の新生児（人形）	・胎児の成長（胎児モデル）	・命が育っていく様子	
・大切な命	・命のバトン	・自分と人の命を大切にすること	・出産を通しての命の尊さ、大切さ、家族のつながり
・男女仲良く	・デートDV	・自殺と暴力防止	・助産師の仕事 など
中学校			
・命の大切さ、尊さ	・命のはじまり、つながり	・命と命の出会えた奇跡	・命のバトン
・守られる命から守る命へ	・自分の存在を大切に考える	・体験コーナー（妊婦ジャケット・人形）	・ライフプラン
・思春期の心と体の変化	・男女の違い	・男女の関わり	・人権としての性
・出産、誕生	・責任ある行動	・望まない妊娠	・中絶、性感染症
			・性の多様性
			・LGBT
			・性感染症の種類、防止策 など
高等学校			
・命の大切さ、尊さ	・命について、命のはじまり	・命の輝き、生きる力について	・自分を大切にすること
・生と性	・思春期とは	・二次性徴	・同性、異性の性
・男女の心と体	・男女の性行動の違い	・男女のあり方、交際	・性の発達、自立
・妊娠、出産、子育て	・人形を使っの育児体験	・卵子の老化、健康な体作り	・月経、基礎体温
・不妊	・子宮頸がん	・望まない妊娠、中絶	・性感染症、予防
・人生設計	・自分で作る未来	・将来に向けて今すべきこと	・ネット、メール、出会い系
			・デートDV
			・親としての責任 など

「出前授業」講師派遣事業の進め方（依頼施設）



※「いのちの教育・性の健康教育」の講師は、山形県看護協会「性の健康支援ネットワーク」に登録している看護職（保健師・助産師・看護師等）が行います。

今後について
 Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。
 各年代に合わせた「いのちの教育」「性の健康教育」を継続して実施していく中で、子どもたちがいのちのすばらしさを知り、今後の人生において、自他のいのちを大切に考えることができるようになることを目指して活動していきます。

2022輝く県民活躍大賞 受賞活動(団体)の紹介

令和5年3月10日 発行

<ジュニア・ユース部門、一般社会貢献部門>

山形県防災くらし安心部 消費生活・地域安全課

県民活動・防災ボランティア支援室

<若者部門>

山形県しあわせ子育て応援部 女性・若者活躍推進課